

SDS ゲートキーパー養成講座 報告書

2023 年 11 月 9 日

報告者：山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座

開催日時：2023 年 11 月 9 日(木) 13 時 30 分～16 時 40 分

開催場所：ときわ湖水ホール

参加定員：23 名

参加対象者：専門職等

参加申し込み方法：宇部市障害福祉課へ申し込み

開催形式：会場参加のみ

講演者：山口大学医学部社会連携講座 山根俊恵教授

参加人数：23 名

概略：

早期に SDS (Social Distancing Syndrome：社会的距離症候群、偏見や誤解を生まない用語として、いわゆる「ひきこもり」に代わる用語として提案) の当事者やその家族に気づき、思いを傾聴し、苦悩を理解して適切な支援機関につなげ、見守る「SDS ゲートキーパー」の養成、また SDS に関わる支援者のスキルアップ事業の一環として、本講演が開催された。

内容：

ひきこもり支援の第一人者である山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座 山根俊恵教授により、「SDS ゲートキーパー養成講座行政・地域包括支援センター・福祉なんでも相談窓口、居宅介護支援事業所・相談支援事業所など」の講話があった。グループワークにて事例の話し合いと助言等意見交換を行った。

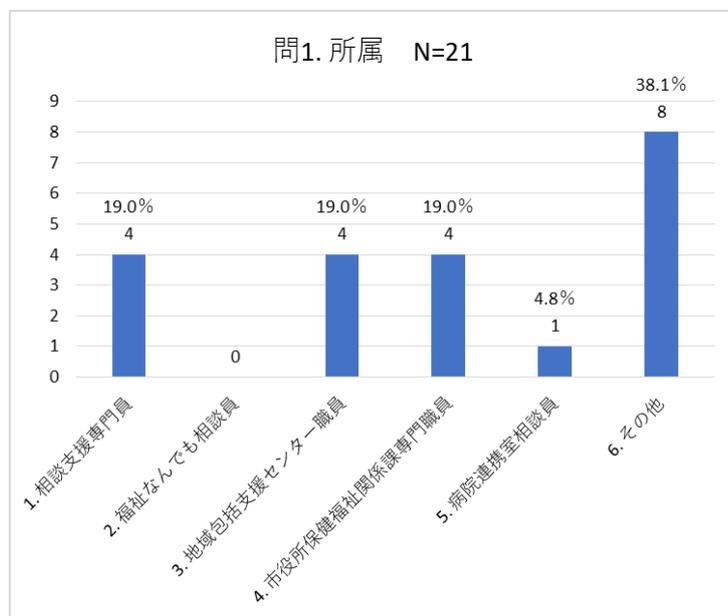
以下、終了後のアンケート結果 (p2～8) を添付する。

SDS ゲートキーパー養成講座アンケート集計結果

回収状況

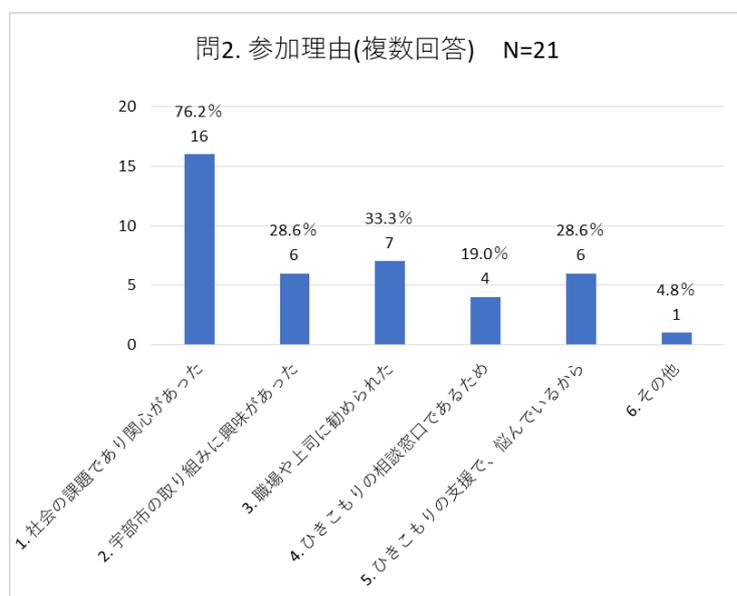
参加者 23 名にアンケート用紙を配布し、21 枚の回答を回収した（回収率 91%）

問 1. 参加者の所属



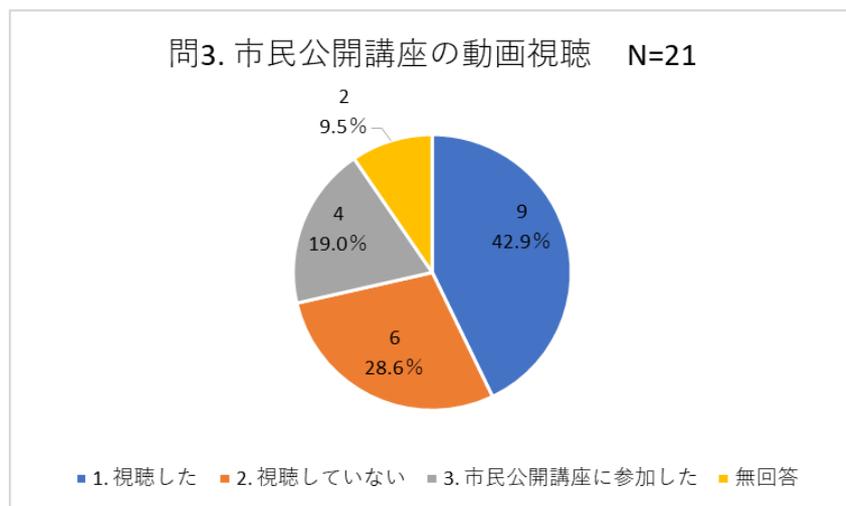
「相談支援専門員」4名、「地域包括支援センター職員」4名、「市役所保健福祉関係課専門職員」4名、その他は「介護支援専門員」1名、「連携室ではないMSW」1名、「就業生活支援センター」1名、「居宅介護支援事業所」1名、無回答1名であった。

問 2. 参加した理由(複数回答)



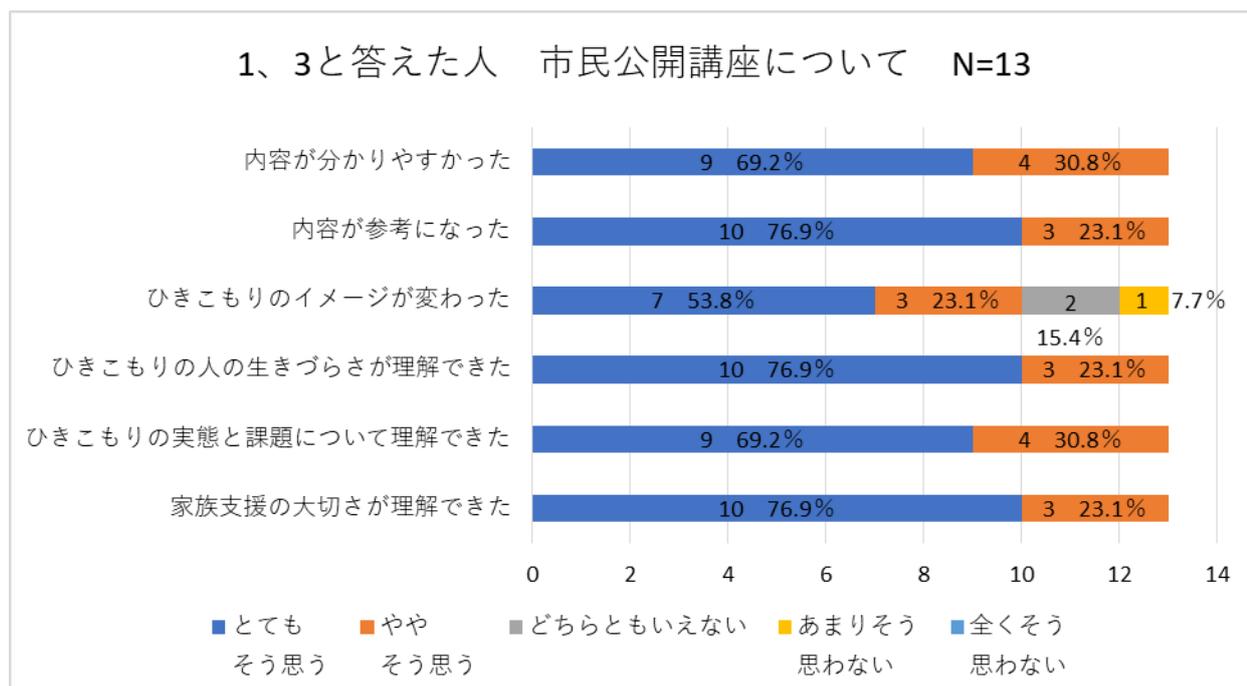
「社会の課題であり関心があった」が16回答であった。その他の理由で、「『相談先が知りたい。』と相談を受けた時、答えることができなかったため」が1回答あった。

問3. 市民公開講座「誰もがなりうる『ひきこもり』の正しい知識」の動画視聴について



「視聴した」が9名、「視聴していない」が6名、「市民公開講座に参加した」が4名であった。

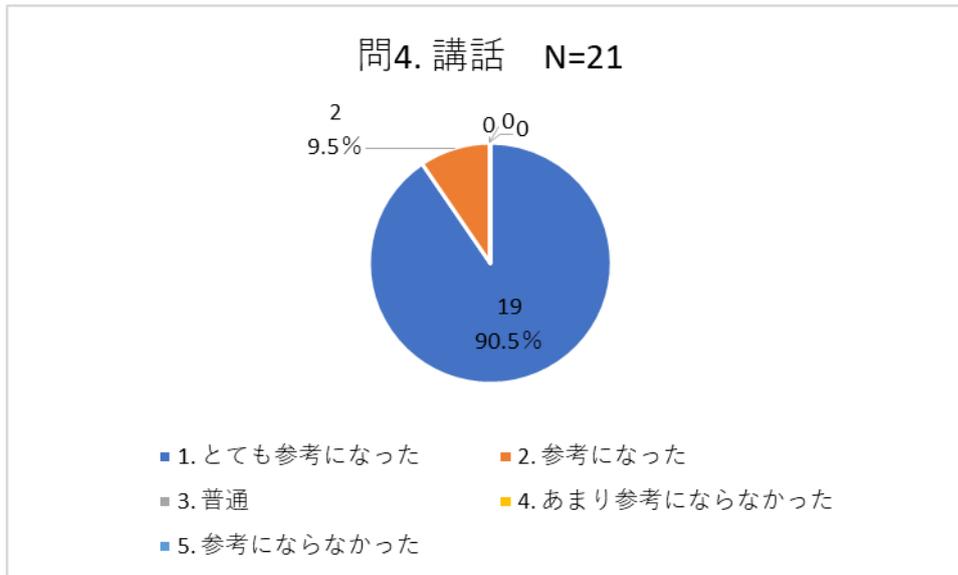
1、3と答えた方 動画を視聴(市民公開講座に参加)してどのように感じたかについて



「内容が参考になった」「ひきこもりの人の生きづらさが理解できた」「家族支援の大切さが理解できた」については、「とても思う」が10名であり、「やや思う」が3名であった。

「ひきこもりのイメージが変わった」については、「とても思う」が7名、「思う」が3名であったのに対し、「どちらともいえない」が2名、「あまりそう思わない」が1名であった。

問4. 講話について

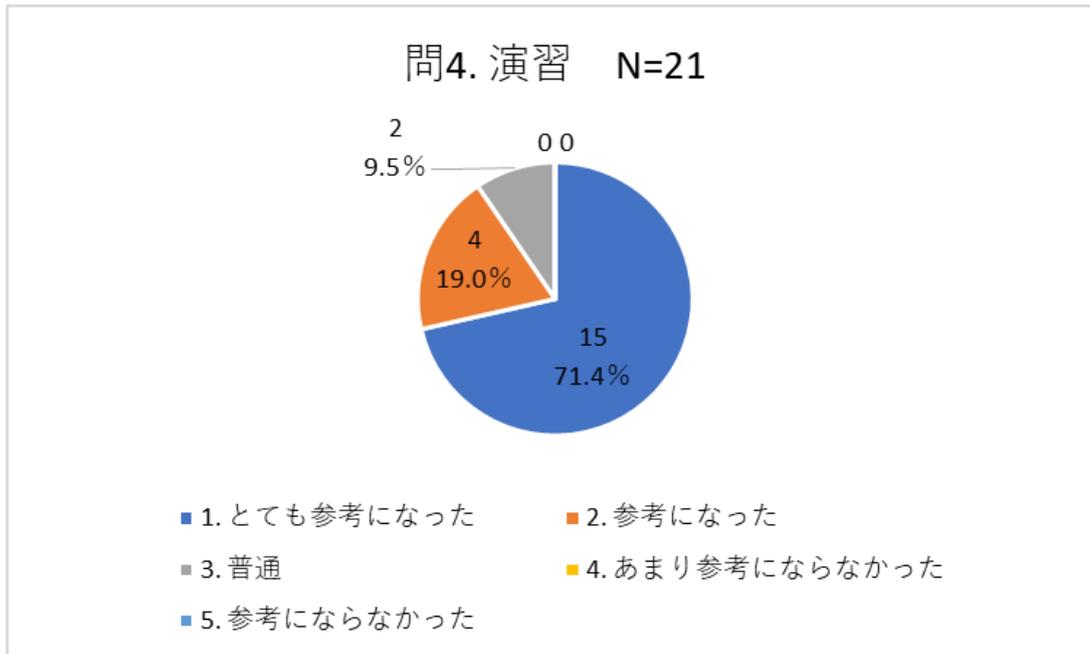


「とても参考になった」が19名、「参考になった」が2名であった。

参考になった具体的内容について

・相談の姿勢、声かけの工夫等大変参考になりました。
・親の関わりが変われば子供の反応も変わっていくということ、家族心理教育基礎編に参加し学びたいと思いました。
・ひきこもりについて大変よく理解ができました。
・中立な立場で共感しながら話していくことが大事。
・事例を挙げて説明があったので、アセスメント時の共感等の考え方、言葉の変換方法や、中立の立場について学びました。
・コミュニケーションの取り方ポイント②で怒りの本質に目を向け、共感する。意識していきます。
・事例を聞きながら学べてよかった。
・対話の仕方、共感が大切。関係性を作ること。
・SDSについて改めて知り、支援において必要なことを学ぶことができた。
・強いメッセージ性を感じ、改めて尊敬しました。心救われる方がたくさんおられると思いました。

問4. 演習について

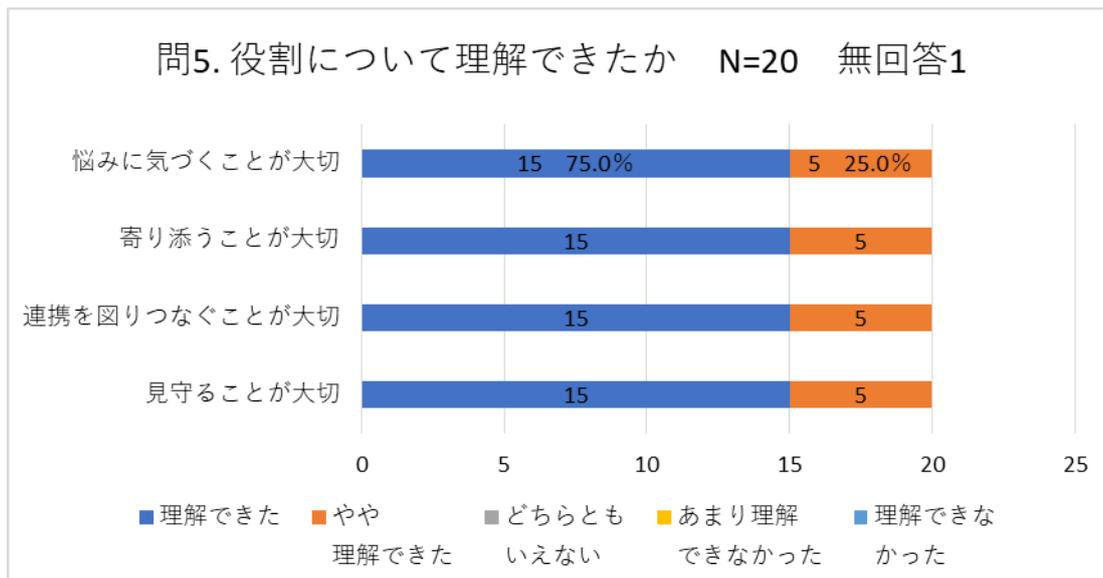


「とても参考になった」が15名、「参考になった」が4名、「普通」が2名であった。

参考になった具体的内容について

・他の方の意見が聞け参考になった。
・具体的な対応について意見を交換することができた。
・グループワークを通して発表後の先生の解説が、より具体的な説明でとても勉強になりました。
・グループごとに話していただき、より理解しやすかったです。
・いろいろな事例にふれて考えることができ勉強になりました。
・相談があった時に自分がどうするか、どのように対応することができるのか考えることができました。
・所属先の異なる方との意見交換は大変参考になりました。横の連携がもっととれればよいなと思いました。
・事例に対して、先生の意見がきけたことはとても参考になりました。

問5. 役割について理解できたかについて



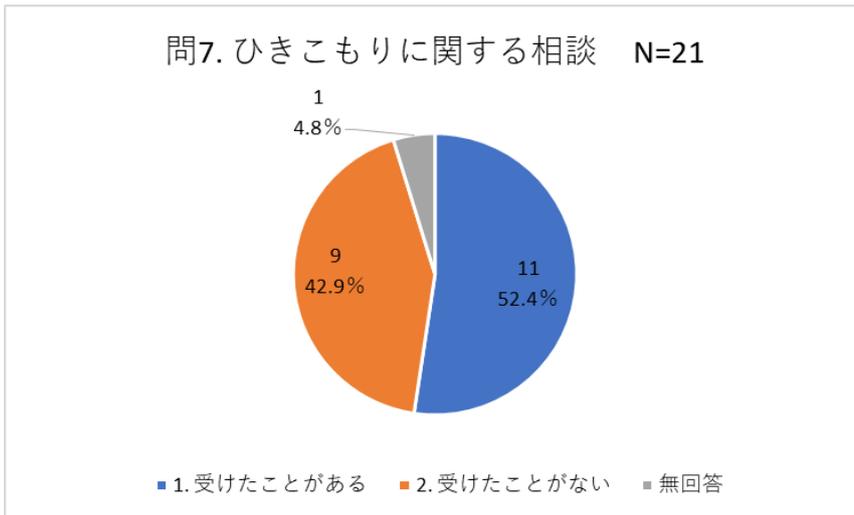
全ての項目において、「理解できた」がそれぞれ15名ずつ、「やや理解できた」がそれぞれ5名ずつであった。

問6. 今後気をつけたい事や実践したい事について(自由記載)

・解決ありきの対応をしないこと。
・自信がないのでとても不安がある。が何もしないわけにはいかないので、まず聞き出す事ではなく自然体で話を聞くという事からはじめてみれるかなと感じた。それを一人で抱えこまず共有し、きっかけをのがさない様にしなくてはいけないと改めて立場の重要性を感じた。
・面談中に「対話を広げる」を意識して話を聞きたい。聞く姿勢も気を付けたいです。
・家族をシステムとして捉える。社会の最小単位である家族として深めていきます。50人に1人がSDSの状況。これは社会問題であり、社会のあちこちにヒビが入っている状況と思います。ヒビからこぼれた支援体制構築とヒビ自体をふさぐ社会としての対応が必要と感じました。
・相談者の悩み(具体的な)を知る(気づく)ことや、中立の立場での声かけを行う努力をします。支援を焦らないでいいということ。
・否定せず話を聞くこと、言葉どおりの相談内容だけでなく本当のニーズはなんなのか気付けるようにしていけたらと思いました。適切な機関と連携をとれるように「つなぐ」ことができるように自分自身の知識を増やしていく必要があると思いました。
・本人支援だけでなく、家族にもしっかりアセスメントをしたい。

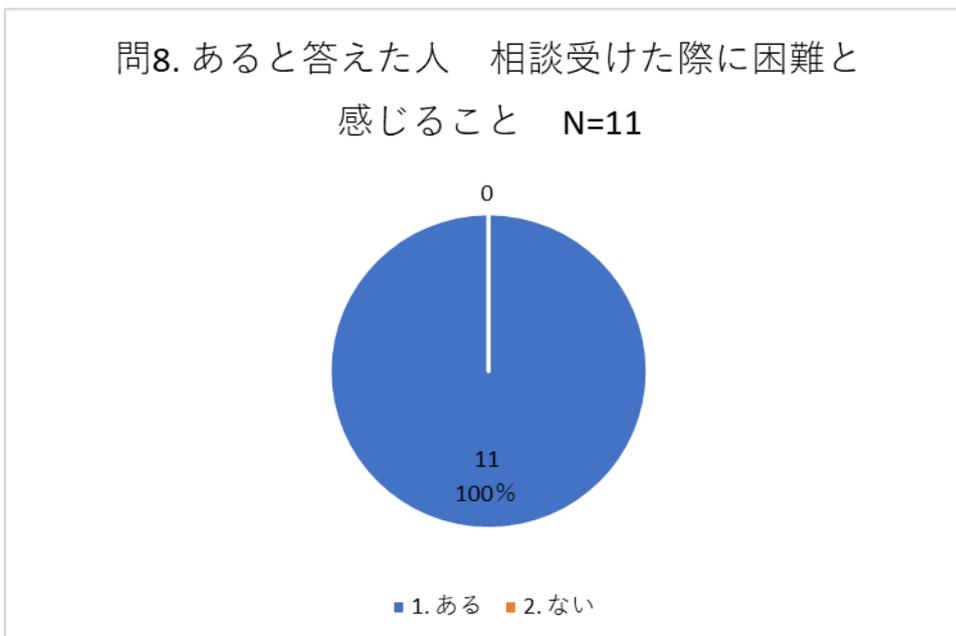
- ・中立の立場で話を聞くことについて、難しいと感じる。今日学んだことを活かして面談したいと思う。
- ・当事者、家族に対して中立の立場にいることについて、とても大事なことだと理解できるが実践は難しいと感じた。
- ・答えをすぐに出そうとしない。聴くこと。
- ・中立の立場をとる。しっかりアセスメントして取り組む。

問7. ひきこもりに関する相談



「受けたことがある」が11名、「受けたことがない」が9名であった。

問8. あると答えた方

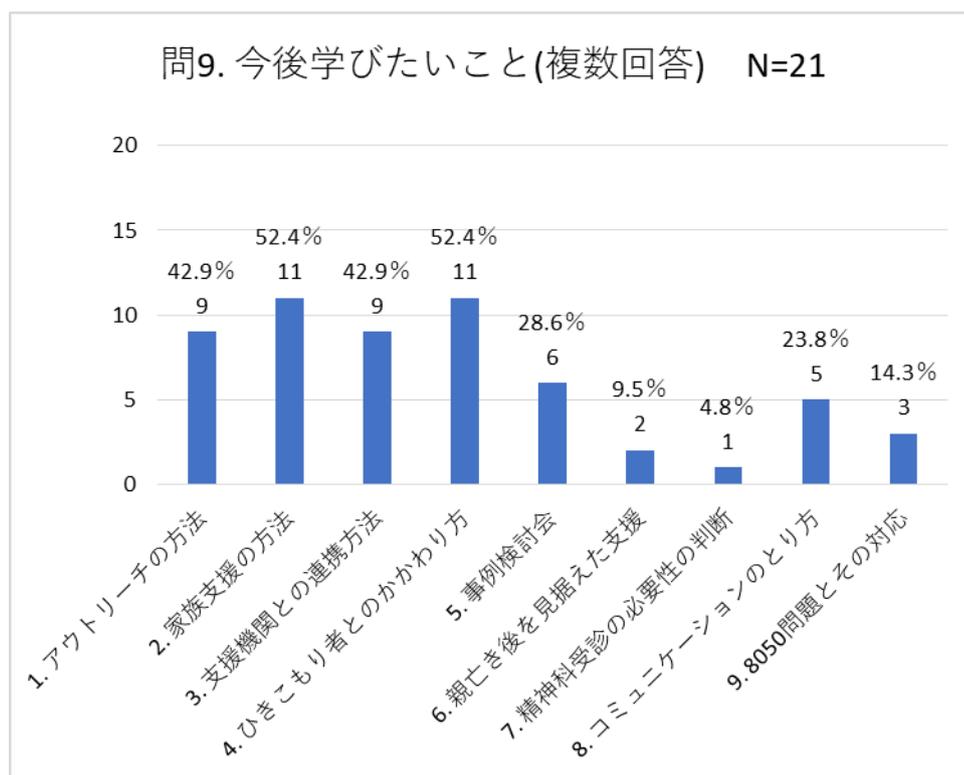


相談を「受けたことがある」と答えた11名のうち、相談を受けた際に「困難と感じた」人は11名全員であった。

相談を受けた際に困難感じた内容について

・当事者とのコミュニケーション、アウトリーチの方法、精神科医のアウトリーチがないこと。お金がなくて専門のひきこもりの支援が受けられない。
・関係性の始め方
・伴走していくこと(本当にこの対応でいいのかの悩み)
・すぐに問題解決ができるわけではない。長期に渡る伴走が必要であること。
・独身、身よりもなく、支援者がいない。
・次につなげる相談窓口を知らない。時間的に難しい。
・どの様に介入していくか。誰に声をかけていくか。
・面談、訪問拒否された時の対応。
・支援者としての成功体験がない。
・対象者本人と関わること。拒否からのスタートであるため。
・本人の話聞くことができるまでにつなげなかった。

問9. 今後学びたいこと(複数回答)



「家族支援の方法」「ひきこもり者とのかわり方」が11回答で最も多く、「アウトリーチの方法」「支援機関との連携方法」が9回答であった。「事例検討会」については6回答で、「コミュニケーションのとり方」は5回答であった。「8050問題とその対応」は3回答であり、「親亡き後を見据えた支援」が2回答、「精神科受診の必要性の判断」が1回答という結果であった。